

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 骨粗鬆症リエゾンサービスチームの設立が大腿骨近位部骨折の手術にあたる影響』

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 整形外科 職位・氏名 助教・高田和孝

【試料・情報の利用目的】

取得した試料・情報は骨粗鬆症リエゾンサービスチームの介入によって大腿骨近位部骨折の治療にどのような利点があるかを調べることを目的とした研究に利用します。骨粗鬆症リエゾンサービスは多職種（医師や看護師、薬剤師、理学療法士など）が治療に介入することで、骨粗鬆症の治療を行い、骨粗鬆症の悪化により生じる骨折（脆弱性骨折）を予防することを目的としています。中でも大腿骨近位部骨折は脆弱性骨折の代表的な骨折であり、骨折してしまった場合でも、次の骨折がおきないように治療介入することが大切です。当院では、骨粗鬆症リエゾンサービスを2022年9月から開始しており、本研究ではその介入によって大腿骨近位部骨折の治療および骨粗鬆症の治療にどのような影響を与えるかを調査すること目的としています。この研究で得られる成果は、大腿骨近位部骨折における治療の向上につながります。

【他機関への提供】

他機関への提供は行いません。

【研究に用いられる試料・情報】

診療情報の内容、X線などの画像情報、採血検査結果などを使用します。

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など、個人を特定できる情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できる情報を報告・公開することはありません。

【試料・情報の利用または提供を開始する予定日】

2024年2月より利用を開始します。

【試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名】

該当なし

【試料・情報の取得方法】

対象者：2016年4月～2023年12月までに東邦大学医療センター大橋病院 整形外科において、大腿骨近位部骨折の診断で手術を受けた方のおおよそ500名

方法：診療録（カルテ）から抽出したデータを解析します。

術後観察期間は1年です。

【研究組織】

代表施設名：東邦大学医療センター大橋病院 研究代表者：高田和孝 役職：助教

【利用する者の範囲】

東邦大学医療センター大橋病院 研究代表者： 高田和孝 役職： 助教

【試料・情報の管理について責任を有する者の名称】

東邦大学医療センター大橋病院

本研究に関してご質問のある方、試料や情報を研究に利用することを承諾されない方、もしくは代諾者(研究対象者の親権を行う方、配偶者やその成人した子供、後見人その他これらに準じる方で、両者の生活の実質や精神的共同関係から見て、研究対象者の最善の利益を図りうる方)は、2024年2月29日までに下記へご連絡下さい。申し出のあった方の試料・情報は、利用や他の研究機関への提供を行いません。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院 整形外科

職位・氏名 助教・高田和孝

電話 03-3468-1251 内線